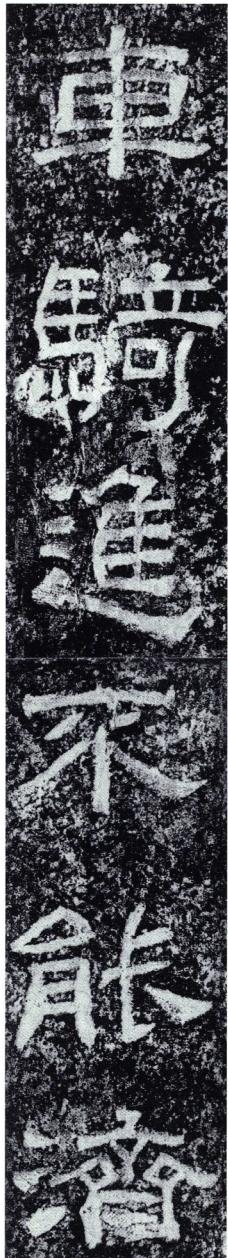


誌上講習 西狭頌（せいきょうしょう）

福島松韻書



車 騎 進 能 濟

横画の間隔が等しく、線質も美しく字形も良い。

馬偏の点三本に見えますが、四本書きましょう。旁の横画に波磔と最終画の独特的な曲線を書きましょう。

旁の上に隸書では、クを必ず入れます。これはこの様に、四画書いて右払いの波磔を入れましょう。

六画で、左払いと右払いの波磔が、左右均衡していく、大変バランスが良いです。

草書は、隸書から変化したことが旁の形から理解出来ますね。

偏と旁のバランスが良く字形がいいですね。旁の一画目と横画が繋がっていて、波磔が入り、下の右払いも波磔が入り二磔に見えます。

誌 上 講 習 皇甫誕碑（こうほたんひ）

大田鵬雨書

いよいよ最終回です。今月の箇所は画数の多い字があり、少し難しいかもしだせんがチャレンジしてください。



殷 但 禮 免 闡 務

人偏より旁の高さを低くします。その上部を
あけ安定のある字形に。

示篇の下部を長く重心を上げ画数の多い「豊」との対比で疎密のバランスをとります。隙なく分間を保ちましょう。金封書きに使えます。

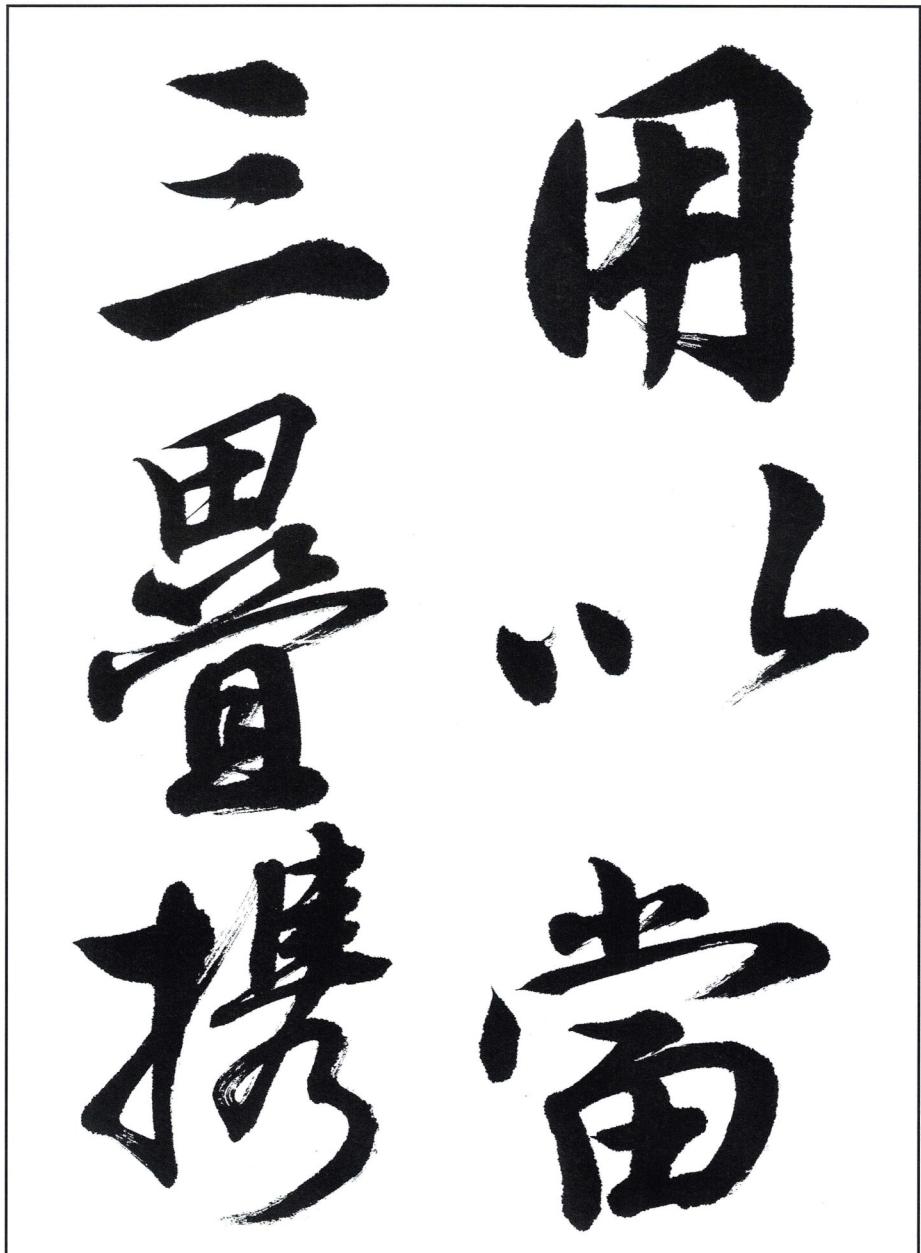
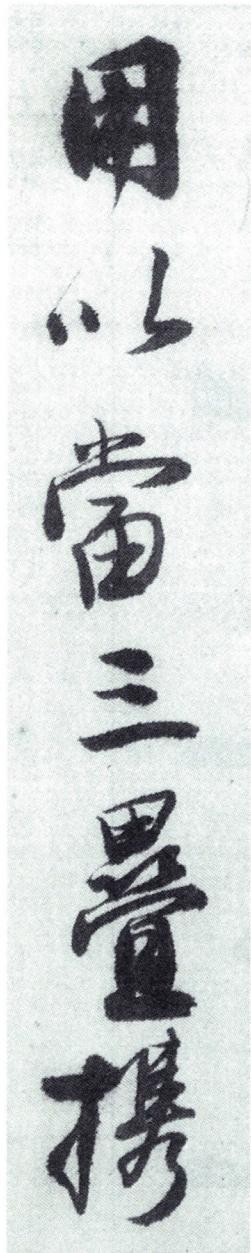
すらりと長身に且つ背勢で引き締めます。
旁「韋」は横画が続き空間も狭く大変ですが分間を保ちましょう。

矛篇の左払い、旁の「文」の右払いと伸びやかに見せます。中心付近の密度がこれをさらに助長します。

これも篇と旁の法則。中心付近に密度、左右への広がりを意識ください。

一年間一緒に勉強していただきありがとうございました。書の基本は古典臨書です。正確に見る事で気づく事も沢山あるでしょう。それを見つける楽しさを今後も続けると学書が進むことと思います。

郡 玉川書



用 以 當 三 疊 攜

十一月号で全頁終了しましたが、最後にもう一度、筆脈・意脈を考えながら、前の部分を勉強します。

墨量多く、運筆途切れ無い様に。

左から右へ、筆脈、空間考えて。

用 以 當 三

「當」です。全体にゆつたりと。穩やかな字形ですね。上部少し左に、下部少し右に。

一画ずつ、意脈途切れない様に。

画数の多い字です。実画を考えながら運筆して下さい。

「攜」です。旁、縦画を先に一画書き、続いて横画を四画書いてから最後に右上の縦画から連続して「乃」を書きました。

今回、勉強の場を頂き、毎回、選文し、半紙に臨書。その都度、かなりの枚数の半紙を使いました。以前からこれほど書いていれば、もつとマシな誌上講習になつていただろうに……と猛省の日々でした。一年間、稚拙な文字と説明文におつきあい頂き、ありがとうございました。感謝します。

玉川

誌上講習 張瑞図（ちょううずいと）

推禮數優曲



西 紅邑書

（親しく）推す礼数の優部曲

才偏も長いですね。旁を上に上げて。

推 禮 數

この字も偏が大きいです。が細く勁い、わ

かりますが難しい。

推から見れば少し右に流れている様ですが
「数」の二、三画目の長いこと。

イ偏大きく堂々と。

曲 部 優 數

偏の上下の空間、もっと空いています。

墨を入れてゆつくりと。

今回、美しい絹本に書かれた巻子作品、感遼事作六首巻を皆様と共に一年間学ばせて頂きました。ありがとうございました。この臨書も残り1/3です。由源の十月号P.54、尾崎先生が書かれた「古典を学ぶ」を読みながら、と共に勉強を続けましょう。